

2-2 第3回協議会ワークショップ内容の紹介

第3回協議会のワークショップで各グループから発表された内容を以下に紹介します。

Aグループ(三島委員発表)

- ・ A1+C2+ (E)  
雨水を効果的に集める方法を検討する  
地下水も考慮に加える
- ・ F1'+ (C2)  
市野川の組み合わせ  
安く市野川の水質浄化ができれば可能(安価な方法に改良する意味でF1'とした)  
ヨシ原マットをやめる。横堤の撤去をやめてボックスカルバートを導入するなど  
コストを下げる工夫をする

Bグループ(恵委員発表)

- ・ 短期的には上池改良を目指す(Eの変形版)
- ・ 周辺水田からの年間10万トンの流入水を確保する
- ・ 地下2.5mの地下水位を掘削し、湿地を徐々に増やす
- ・ 横堤の掘削はせず、自然通水に期待する(砂利の層による)
- ・ 掘削はワンドなどを組み合わせ、多様に行う
- ・ それによって多様なヨシ原などをを目指す
- ・ 雨水貯留の際にはU字溝は使わない
- ・ 井戸は使わない。ポンプが必要な場合、自然エネルギーでの対応を検討する(風車等)
- ・ 市野川導水案も将来的には検討する
- ・ 旧流路に水があふれたときには、本川に落とさないよう調整する

Cグループ(堂本委員発表)

- ・ 考え方  
荒川の自然環境を元に戻すために湿地環境を再生させることがまず必要  
今現在の自然環境を把握し、今以上のものを作ろうとしたとき考えられるのが今日の意見ではないだろうか  
事業実施に当たっては、荒川全体の自然再生と矛盾をしないように注意が必要  
可能性がある水供給については、よく調べて(精査して)もらう
- ・ 最もふさわしい組み合わせ  
A-2の付け足しとして市野川から水を引っ張り、雨水も利用する(A+C+F)  
(ただし、F案については金額の精査が必要)
- ・ 補足  
雨水については農業用水も含めて考える(そこから、できるだけ多く持ってくる)  
さらに水が必要であれば、ポンプを使っても良いのではないかと。

Dグループ(小川委員発表)

- ・ 上池と中池の深さを同じにする
- ・ 上池で、年間の2/3の期間は水があるようにする
- ・ 上池と中池と下池をボックスでつなぐ
- ・ 雨水をためるため、新たなため池を掘ることも検討する
- ・ ポンプは最初から考えない
- ・ 本川から水をいれる方法について、後々検討していく
- ・ 雨水の利用(流域の水を集める;ただし、水量は微量ではないかとの意見もあり)
- ・ 市野川の水を引く
- ・ 湿地を使った浄化
- ・ 連結の仕方には意見の差がある
- ・ モニタリング重視なので、とりあえずやってみて、結果により修正をしていけばよいのではないかと
- ・ 全体的に、自然をできるだけ利用した方法を用いたい

注)第3回協議会資料 資料-1 P22 事業メニューの組み合わせ

A-1: 上池及び下池部に高水導水路+堆積物の除去

A-2: A-1+3池をボックスカルバートで接続

C-1: 雨水の側溝による集水+ワンド+堆積物の除去

C-2: C-1+3池をボックスカルバートで接続

E-1: C-2+地下水のポンプアップ(複合案)

F-1: 市野川の導水+横堤の撤去+導水の浄化+堆積物の除去(流水環境)